

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370401230		
法人名	株式会社マザーズ		
事業所名	グループホーム円頓寺東館		
所在地	愛知県名古屋市西区那古野1-20-30		
自己評価作成日	令和 2年12月12日	評価結果市町村受理日	令和 3年 7月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvovsOcd=2370401230-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 2年12月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>企業理念でもある「人生楽しく自分らしく」をもとに住人様1人1人の想いに寄り添い住人様とご家族様の想いを尊重した支援を心がけてその人の自分らしい暮らし方を医療と連携しながら支援していきます。</p> <p>コロナで面会ができなかったり、イベント・サロンがほとんど中止になってしまいましたそんな時間が続く中で季節のイベントや地域の行事を今の生活の中でどうしたら行えるかできることを探りながら形を変えながら継続して行っていきたくと思っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは昔ながらの商店街にあり、近隣のお店の協力も得ながら利用者がホーム外でも自由に活動できる住環境となっている。現在は自粛中だが、毎月開催される商店街の「ごえん市」にも露店を出して参加している。近隣幼稚園との交流も継続し、今年も屋外でハロウィン交流会を行っている。</p> <p>利用者や家族の思い・意向を尊重し、実現が難しくても、実現可能な方法を職員間で話し合い、支援実践に取り組んでいる。一人でも外出させたいとの利用者・家族の希望で、GPSを活用して一人で外出している利用者もいる。</p> <p>身体拘束防止に関する法人目標をホーム独自で落とし込み、職員間で、利用者の呼び方やスピーチロックを行わない目標を設定し、利用者が「楽しく自分らしく」生活が維持・継続できるように支援している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	お参り、お散歩などの形で地域に住人様が出る機会を積極的に支援しています	「人生楽しく自分らしく」の法人理念は導入研修やオリエンテーション・職員会議等で説明し、OJTを通じて理解浸透を図っている。地元商店街の住民の協力も得ながら今までの暮らしの延長で生活できるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ラジオ体操は継続行っています。買い物、クリーニング屋さんに行くときには住人様も一緒に行くことで地域住人としての交流になっている	ホーム前のお寺駐車場で行われるラジオ体操に、毎日利用者が参加している。地元商店街でも、祭りの張りぼてづくりへの参加、幼稚園とのハロウィン交流会を開催するなど継続的な地域交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施錠をしない支援を行っているため外出される住人様とのいろんな関りを見ていただく中で「〇〇さんだね」「大変だけど頑張ってるね」など声をかけていただくことが増えた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、参加いただいていた方は高齢の方も多かったためアンケートや取り組み報告とともに意見をいただいたりと形をかえて行っている	今年度は市からの指示により書面開催としている。会議参加者からアンケートをとり、意見や提案をホーム運営に反映している。利用者の体力維持のための体操DVDのアドバイスをいただき実践につなげた取り組みもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保護係の方が来設された時などには住人様の様子をお伝えしている	新型コロナウイルス感染症予防対策や法改正情報など、メールを中心に情報配信を受けている。生活保護受給者も利用しており、区の保護課職員も定期的に来訪して連携が取れるように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	弊社での二か月に一度の身体的拘束適正化委員会への参加、会社の目標とは別に事業所目標があり会議などで話し合う機会を作っている	身体的拘束適正化委員会を2ヶ月毎に開催し、法人目標「言葉の暴力をなくす」のもと、「さんづけで話す」「ちょっと待つて」の対応など、職員間で話し合い、ホーム目標を設定し、拘束しない支援継続に取り組んでいる。利用者は自由に活動しホーム内の施錠はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍で新たに始まったe-ラーニングでは虐待についての受講を必須科目として行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を実際利用されている方がいる職員の方が来設された際には住人様の様子をお伝えしたり、行っていただけるサービスの確認を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	現状は会社の契約担当が行っている利用者、ご家族様を交えて説明し、ご理解いただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来設時などに意見・要望を聞き出すようにしている、又定期的にアンケートをとり職員に公表し改善点などは会議で話し合っている	毎月のお便りで利用者の近況を写真などで伝え、意見・要望を言いやすい環境づくりに努め、電話やメールで聞き取りをしている。一人でも外出できるように、家族要望でGPSを保持している利用者もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	弊社にて行っている職員アンケート、面談や会議での聞き取りを通して要望を聞く機会を設け必要時にはできるだけ早くの反映を目指している	職員は定着し、職員会議や年2回の人事評価面談、法人の職員アンケートのほか、日常業務の中でもコミュニケーションをとり、意見・要望の聞き取りを行っている。体調面のほかメンタル面でのフォローにも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新職員には入職1か月での新スタッフ研修3カ月面談がある賞与時期には自己評価シート職員アンケートを用いて管理者・職員ともに成長できるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度よりeラーニングが始まり職員はインターネットでの研修を行っている。 介護福祉士試験の案内もある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会はコロナ禍の為中止となっている リーダーや管理者は研修を通じ違う事業所との意見交換などを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報をもとにスタッフで話し合い本人様の不安や要望など情報を共有する 初期にはできるだけ落ち着いた環境などでの聞き取りを心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にこちらから挨拶、近状をお伝えし会話の中でご家族様からの要望など聞き出せるよう心がけ要望にはできるだけ実践できるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの情報やご本人の様子ご家族様からのお話から支援方法を考えご本人様の想いを尊重しながら今必要な支援を決めていくよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	盛り付け・洗い物など住人さんが好きなことできることを共に行う中でご本人が役割ややりがいを感じられるように、できる部分を増やしていけるよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の希望を尊重しながら通院同行管理の仕方、体調の変化などあった際には支援の方向など含めて相談している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会についてはコロナの状況をみながら対応をさせていただきご協力得ている 手紙の写真を増やすなどし会えなくても身近に感じていただけるよう努めている	地元商店街での交流を継続している。買い物や喫茶店など、自粛中もテイクアウト等を利用し、生活習慣が継続できるように取り組んでいる。レース編みなど趣味の継続にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションが難しかったり誤解されてしまいがちな住人様にはスタッフが間に入り関りをもてるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にし、ご本人様ご家族様との関係が続いていけるよう努めていきたい		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の希望がある際に対応できるようにしている、実現できない場合は代替案を検討し近づける支援を行っている	散歩や入浴時など個別の関りの中で、発語や仕草・表情などから思いの把握に取り組んでいる。申送りノートに記録し、職員間で情報共有した上で、実現に向け支援している。実現できない場合は代替案を検討・実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報やご家族様からお聞きした情報の共有を行い、入居以降は住人様の生活のリズム、大切にしていること、好みなどを様子や会話を通じ探っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	住人様個々の生活パターンを把握し心身の状況にあわせ臨機応変に対応できるように職員間で申し送りを行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議での計画の見直しやご家族様への意向の聞き取りなどを行い支援の方向をチームで考え決定している その際には医療、STなどの専門職の意見も取り入れている	計画作成担当者が毎月サービス内容のモニタリングを行い、定期的(1年毎)な見直しのほか、利用者の状態や意向の変化があった際に、適宜計画の見直しを行い、利用者の「やりたいことの実現」に取り組んでいる。	サービス実施の頻度は「随時」と記載され、職員側の意向の反映した計画となっている。数値目標など具体的な目標として、実施評価しやすくする工夫が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌や申し送りなどを読み返し日々の変化の共有「最近どうか」についての会話を意識して行っている、記録に関しては個人差もあり課題がある		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様同行での受診が多かったが最近では同行の要望が増えている 住人様・ご家族様から希望の言いやすい環境作りに取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の喫茶店・コンビニ・雑貨店イベント時期には地域の飲食店のテイクアウトやお弁当の利用を取り入れている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診前に住人様に体調やそれ以外でも今、相談したいことはあるかの聞き取りを行い往診時主治医に伝え安心していただけるようにしている	利用者全員がホーム協力医をかかりつけ医とし、月2回の往診を受けている。その他、訪問歯科や訪問マッサージの支援もある。専門医受診は家族対応を原則としているが、柔軟な対応ができるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師の訪問で住人様の健康の状態を把握してもらっている 訪問後は情報の共有を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時住人様の情報を掲示できるようにしている、入院中は定期的に病院へ行き様子や近況をうかがっている 退院前にはカンファレンスを行い情報の共有を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについてご本人・ご家族様に書面にて説明している、看護師・主治医と連携をとりながら状況に応じ意向の確認を行いそれぞれの終末期をむかえていただけるよう意識している	入居時に看取り方針を説明し、状態変化の都度、家族と話し合い、支援方針を決めている。現在2名の利用者が、家族の意向に添って、看取り支援の対応になっている。医師や看護師とも連携し、利用者や家族の意向に沿った支援ができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成しているマニュアルに基づき対応できるようスタッフに周知している、緊急時のバイタルサインや状況を速やかに看護師に伝えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い避難場所や方法などを確認している 消火器や受信機の使用方を消防署の方に教えていただいた	避難訓練で今年度は、避難訓練の消防署立会いは得られなかったが、消火、通報訓練の指導を受けて行っている。今年は水害想定での避難訓練も実施している。水やお米などローリングストックしている。	火災や地震災害、停電など具体的な被災状況を想定し、安否確認や地域協力・連携なども含めた災害対策を検討し、訓練実施することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄・入浴支援時には特に慣れた支援にならないよう意識し、カーテンを閉める訪問時のノックを心がけている	利用者に教えてもらえることも多く、人生の先輩として尊敬の念を持ち、利用者一人ひとりに合わせた支援に努めている。権利擁護やプライバシー確保などの研修も定期的に受講し、意識向上を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「どうしますか？」と自己決定していただけるような声かけを心がけ、発語のない住人様に対しては閉じた質問を投げかけるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護計画書に基づき支援を行っている住人様1人1人のペースに合わせて行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれ好きな住人様と「これにはどれがいい」など会話をしながら、服や髪についてお話しし希望に応じて服など買いに行ったり、カットボランティアの予約をしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは住人様のリクエストを取り入れながら皮むき、食材を切る・盛る、洗い物などできる部分をお願いしながら食事作りを行います	冷蔵庫の食材から利用者の希望を聞き、その日のメニューを決めている。3食手作りの提供で、朝食には利用者の希望でパン食の日もある。利用者も積極的に手伝い、調理から片付けまで力量に応じて手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量など記録を行っています食事量や体調の変化がある住人様は主治医に相談し脱水や栄養摂取量に気を付けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床・就寝時に口腔ケアを行い本人様のできない部分に関しては支援を行っています、必要に応じ訪問歯科・リハビリも行っていきます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人に合った時間でトイレの声かけ・支援を行っている、またパット、リハパンについては適宜肌の様子や体調の状態に対してサイズや時間帯の見直しを行っている	リハパン利用でも一人ひとりに合った声掛けや誘導でトイレでの自立排泄を支援している。排泄支援の際も職員間で利用者の状況を確認し合い、不快感軽減に努めている。夜間も利用者に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の乱用にならないようその人に合った方法を探ります、また乳製品や食物繊維の豊富な野菜を意識し取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の体調や状態を見ながら希望を聞きながら1人1人のタイミングに合わせて入浴できるよう支援している	週2回以上の入浴支援を行っている。利用者の体調なども考慮し、入浴剤や季節湯も利用して、ゆっくりと入浴できるように支援している。4階ユニットにはリフト浴の設置があり、車いす利用者も湯舟に浸かってくつろぐことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間のTV音量、温度や湿度に気を配っています、安眠できない時には日中の活動量を増やし夜ねむれるよう散歩・体操など意識し取り入れている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全体往診でお薬の追加や変更などがあれば往診連絡帳に記載し周知、経過を観察し様子変化などあった際には看護師・主治医に報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	人によって違う趣味を(レース編み・歌・DVD)継続してできるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人希望時には可能な限りでかけていただけるよう止める支援ではなく、感情に寄り添った支援を心がけている 人が多いところは現在中止にさせていただいていますがコンビニや散歩、ラジオ体操など提案行っています	商店街でのラジオ体操参加や、散歩や人出の少ない時間帯を見計らったの買い物など、日常的な外出支援に努めている。現在は自粛しているが、利用者によっては一人でも外出している。近隣店舗の協力もあり利用者が自由に外出出来る環境となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設での金銭管理についてはご家族様と相談しながら行っている ご本人様管理の住人様も施設管理の住人様にも買い物の際には一緒にいくなど選択していただいているようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で現在面会ができない為、お手紙や荷物が届いた際にはお声かけし電話で直接お話しするなどコミュニケーションをとっています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住人様のいない時間帯に換気を行う、クリンリネスを心がけ不快な刺激がないよう気を付けながら観葉植物を置くなど居心地の良い空間づくりを意識している	ホームは5階建てビルの3階・4階にあり、5階のホールやベランダを利用し、夏場にはビアガーデンを楽しむ行事もある。共有空間は毎日職員が清掃・除菌し清潔感を保っている。不要な物品を置かず、利用者の安全にも配慮した落ち着いた共有空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでの移動のイメージをしながら机や椅子テレビを配置し食事時など皆さんが集まる時間帯には住人様同士の相性などを留意しながら座っていただいています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の馴染みのものを入居時持ち込んでいただきます、趣味や作った作品、もらったお手紙・写真など置くことでその人ならではの生活空間が作れるよう心がけている	タンスやテレビなど、使い慣れた物品を持ち込んでいる。家族の写真や趣味の作品なども額に入れて飾っている。利用者が、自由に、安全に自分の時間を過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	住人様それぞれのできることを、わかることを把握しそれぞれの支援方法を探りできるだけすっきり分かりやすい表示など心がけることで自立した生活を送っていただけるよう工夫しています		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370401230		
法人名	株式会社マザーズ		
事業所名	グループホーム円頓寺東館		
所在地	愛知県名古屋市西区那古野1-20-30		
自己評価作成日	令和 2年12月12日	評価結果市町村受理日	令和 3年 7月 8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouvoCd=2370401230-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 2年12月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>企業理念でもある「人生楽しく自分らしく」をもとに住人様1人1人の想いに寄り添い住人様とご家族様の想いを尊重した支援を心がけてその人の自分らしい暮らし方を医療と連携しながら支援していきます。</p> <p>コロナで面会ができなかったり、イベント・サロンがほとんど中止になってしまいましたそんな時間が続く中で季節のイベントや地域の行事を今の生活の中でどうしたら行えるかできることを探りながら形を変えながら継続して行っていきたいと思っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	お参り、お散歩などの形で地域に住人様が出る機会を積極的に支援しています		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ラジオ体操は継続し行っています。買い物、クリーニング屋さんに行くときには住人様も一緒に行くことで地域住人としての交流になっている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施錠をしない支援を行っているため外出される住人様とのいろんな関りを見ていただく中で「〇〇さんだね」「大変だけど頑張ってるね」など声をかけていただくことが増えた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、参加いただいていた方は高齢の方も多かったためアンケートや取り組み報告とともに意見をいただいたりと形をかえて行っている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保護係の方が来設された時などには住人様の様子をお伝えしている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	弊社での二か月に一度の身体的拘束適正化委員会への参加、会社の目標とは別に事業所目標があり会議などで話し合う機会を作っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	コロナ禍で新たに始まったe-ラーニングでは虐待についての受講を必須科目として行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を实际利用されている方がいる職員の方が来設された際には住人様の様子をお伝えしたり、行っていただけるサービスの確認を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	現状は会社の契約担当が行っている利用者、ご家族様を交えて説明し、ご理解いただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来設時などに意見・要望を聞き出すようにしている、又定期的にアンケートをとり職員に公表し改善点などは会議で話し合っている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	弊社にて行っている職員アンケート、面談や会議での聞き取りを通して要望を聞く機会を設け必要時にはできるだけ早くの反映を目指している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新職員には入職1か月での新スタッフ研修3カ月面談がある賞与時期には自己評価シート職員アンケートを用いて管理者・職員ともに成長できるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度よりeラーニングが始まり職員はインターネットでの研修を行っている。 介護福祉士試験の案内もある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会はコロナ禍の為中止となっている リーダーや管理者は研修を通じ違う事業所との意見交換などを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報をもとにスタッフで話し合い本人様の不安や要望など情報を共有する 初期にはできるだけ落ち着いた環境などでの聞き取りを心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にこちらから挨拶、近状をお伝えし会話の中でご家族様からの要望など聞き出せるよう心がけ要望にはできるだけ実践できるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの情報やご本人の様子ご家族様からのお話から支援方法を考えご本人様の想いを尊重しながら今必要な支援を決めていくよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	盛り付け・洗い物など住人さんが好きなことできることを共に行う中でご本人が役割ややりがいを感じられるように、できる部分を増やしていけるよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の希望を尊重しながら通院同行管理の仕方、体調の変化などあった際には支援の方向など含めて相談している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会についてはコロナの状況をみながら対応をさせていただきご協力得ている 手紙の写真を増やすなどし会えなくても身近に感じていただけるよう努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションが難しかったり誤解されてしまいがちな住人様にはスタッフが間に入り関りをもてるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にし、ご本人様ご家族様との関係が続いていけるよう努めていきたい		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の希望がある際に対応できるようにしている、実現できない場合は代替案を検討し近づける支援を行っている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報やご家族様からお聞きした情報の共有を行い、入居以降は住人様の生活のリズム、大切にしていること、好みなどを様子や会話を通じ探っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	住人様個々の生活パターンを把握し心身の状況にあわせ臨機応変に対応できるように職員間で申し送りを行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議での計画の見直しやご家族様への意向の聞き取りなどを行い支援の方向をチームで考え決定している その際には医療。STなどの専門職の意見も取り入れている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌や申し送りなどを読み返し日々の変化の共有「最近どうか」についての会話を意識して行っている、記録に関しては個人差もあり課題がある		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様同行での受診が多かったが最近同行の要望が増えている 住人様・ご家族様から希望の言いやすい環境作りに取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の喫茶店・コンビニ・雑貨店イベント時期には地域の飲食店のテイクアウトやお弁当の利用を取り入れている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診前に住人様に体調やそれ以外でも今、相談したいことはあるかの聞き取りを行い往診時主治医に伝え安心していただけるようにしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師の訪問で住人様の健康の状態を把握してもらっている 訪問後は情報の共有を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時住人様の情報を掲示できるようにしている、入院中は定期的に病院へ行き様子や近況をうかがっている 退院前にはカンファレンスを行い情報の共有を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについてご本人・ご家族様に書面にて説明している、看護師・主治医と連携をとりながら状況に応じ意向の確認を行いそれぞれの終末期をむかえていただけるよう意識している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成しているマニュアルに基づき対応できるようスタッフに周知している、緊急時のバイタルサインや状況を速やかに看護師に伝えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行い避難場所や方法などを確認している 消火器や受信機の使用方法を消防署の方に教えていただいた		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄・入浴支援時には特に慣れた支援にならないよう意識し、カーテンを閉める訪問時のノックを心がけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「どうしますか？」と自己決定していただけるような声かけを心がけ、発語のない住人様に対しては閉じた質問を投げかけるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護計画書に基づき支援を行っている住人様1人1人のペースに合わせて行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれ好きな住人様と「これにはどれがいい」など会話をしながら、服や髪についてお話しし希望に応じて服など買いに行ったり、カットボランティアの予約をしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは住人様のリクエストを取り入れながら皮むき、食材を切る・盛る、洗い物などできる部分をお願いしながら食事作りを行います		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量など記録を行っています食事量や体調の変化がある住人様は主治医に相談し脱水や栄養摂取量に気を付けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床・就寝時に口腔ケアを行い本人様のできない部分に関しては支援を行っています、必要に応じ訪問歯科・リハビリも行っていきます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人に合った時間でトイレの声かけ・支援を行っている、またパット、リハパンについては適宜肌の様子や体調の状態に対してサイズや時間帯の見直しを行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の乱用にならないようその人に合った方法を探ります、また乳製品や食物繊維の豊富な野菜を意識し取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の体調や状態を見ながら希望を聞きながら1人1人のタイミングに合わせてながら入浴できるよう支援している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間のTV音量、温度や湿度に気を配っています、安眠できない時には日中の活動量を増やし夜ねむれるよう散歩・体操など意識し取り入れている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全体往診でお薬の追加や変更などがあれば往診連絡帳に記載し周知、経過を観察し様子変化などあった際には看護師・主治医に報告している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	人によって違う趣味を(レース編み・歌・DVD)継続してできるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人希望時には可能な限りでかけていただけるよう止める支援ではなく、感情に寄り添った支援を心がけている 人が多いところは現在中止にさせていただいていますがコンビニや散歩、ラジオ体操など提案行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設での金銭管理についてはご家族様と相談しながら行っている ご本人様管理の住人様も施設管理の住人様にも買い物の際には一緒にいくなど選択していただけるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で現在面会ができない為、お手紙や荷物が届いた際にはお声かけし電話で直接お話しするなどコミュニケーションをとってます		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住人様のいない時間帯に換気を行う、クリンネスを心がけ不快な刺激がないよう気を付けながら観葉植物を置くなど居心地の良い空間づくりを意識している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでの移動のイメージをしながら机や椅子テレビを配置し食事時など皆さんが集まる時間帯には住人様同士の相性などを留意しながら座っていただいています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の馴染みのものを入居時持ち込んでいただきます、趣味や作った作品、もらったお手紙・写真など置くことでその人ならではの生活空間が作れるよう心がけている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	住人様それぞれのできることを、わかることを把握しそれぞれの支援方法を探りできるだけすっきり分かりやすい表示など心がけることで自立した生活を送っていただけるよう工夫しています		